

SCで防災研修広げる

従業員自身の危機管理も啓発

SCで防災啓発イベントなどを行うEnPal（エンパル、金藤純子代表）は、新たな防災研修「ESぼうさい」をSCで広げる。「ショップとSCが一体となって防災組織力を高める」（金藤代表）ことを目的とした研修で、ショップスタッフの自宅を含めた危機管理を強化することでES（従業員満足）向上にもつなげる。

研修ではショップスタッフに防災意識や災害への準備、理解度などを事前にアンケート調査し、その結果を金藤代表が分析・報告し、共有する。さらに、タブレットやスマートフォンでのハザードマップの確認を通じて、「スタッフが施設や店だけでなく、自宅のリスクを知り、災害を自分事として感じる」ワークショップも行う。金藤代表は18年7月の西日本豪雨で岡山県真備町の実家が全壊する被害を受けた。研修ではスマートフォンで撮影した自宅の水害の映

像を流し、「ハザードマップを確認していなかった」など金藤代表自身の反省点と教訓も伝える。アンケート結果は「自然災害時のBCP（事業継続計画）に活用できる」という。

同研修は23年1月に新静岡セノバ（静岡市）で初めて実施した。「地歴を知る」ため、同SC周辺の安部川の氾濫など過去に静岡であった災害に関する講習も行った。アンケートは昨年9月23日の台風15号の発生で同

SCが浸水などの被害を受けたことを踏まえ、昨年11月18日、12月11日にショップ店長130人（回答者71人）を対象に実施。自宅の被災状況や災害発生時に困ったこと、防災で大切に



SCビジネスフェアでは新静岡セノバとプレゼンテーションも行った

思ったことなどを聞いた。それによると、災害発生時に困ったことトップは「停電」、次いで「飲料品不足」「電話やスマホが利用できなかった」。災害によって、「スタッフのシフト、通勤に支障が出た」という回答も多かった。防災で大切と思ったことは「人」「水」「情報」だった。

参加したショップ店長からは「事前準備をしようと本気で思った」「被災したときに本当に必要なことは何かがよくわかった」との声があり好評だった。金藤代表は「SCで災害が発生した際に、自分の身の回りが大変だと出動できない。大切なのは、お客様だけでなく、スタッフの自宅や家族の安全確保。常

織研新聞 2023年2月7日付

に自身の周辺のリスク管理を徹底してほしい」と強調する。エンパルは、商業施設・流通・小売業の顧客分析システムの企画開発やマーケティング・販売支援などを行うリゾームの専

務だった金藤代表が20年8月に設立。SCでの防災イベントの企画・運営などを行う。ESぼうさいは「ショップスタッフとその家族の安全・安心につながるES施策でもある」と強調する。1月25、27日に開かれた「SCビジネスフェア」にも出展し、新静岡セノバとともにプレゼンテーションも行った。